

## 子どもたちの笑顔のために ～クリニックラウンの活動～

株式会社グッドバンカー  
リサーチチーム

「パパ、なぜ日本の病院にはクリニックラウンがないの？」

2003 年初頭、日本在住のオランダ外交官の娘が事故で入院した際の質問が、日本でのクリニックラウン活動の発端となったそうです。

「クリニックラウン」とは、病院を意味する「クリニック」と、道化師をさす「クラウン」を合わせた造語で、入院している子どもたちのもとへ、遊びとユーモアと心のこもったふれあいを届け、子どもたちの笑顔を引き出す臨床道化師のことです。

その始まりは、1960 年代末、アメリカの医師ハンター・アダムスが、笑いの効果を治療に生かそうと考えたことによるといわれており、彼の半生を映画化した「パッチ・アダムス」(1998 年)で、広く社会的に知られるところとなりました。

オランダに伝わったクラウン活動は、やがて小児を対象としたクリニックラウンへと発展し、1992 年には国民の寄付を中心としたクリニックラウン財団が設立され、最も先進的な取り組みを展開しています。

クリニックラウンは、優れた表現者であるとともに、子どもとの接し方、子どもの心理、保健衛生や病院規則にも精通したスペシャリストでなければなりません。オランダでは、募金による活動資金が年間約 600 万ユーロ(約 8 億 5 千万円)に及び、所属する約 60 人のクラウンは職業として確立されています。

このクリニックラウン財団と提携し、2005 年 6 月に日本クリニックラウン協会 (*Japan CliniClowns Association*) が大阪市に設立され、国内でのクリニックラウン養成が本格的に開始されました。2 度の公開オーディションには、約 120 人の応募があり、2006 年 3 月、日本人初のクリニックラウンとなる男女 4 人が認定試験に合格し、大阪府母子保健総合医療センター(大阪府和泉市)などで本格的な活動を開始しているということです。

日本クリニックラウン協会も、賛同者からの寄付金が活動資金となっています。例えば、医薬品メーカーの日本オルガノンも、この活動の支援を行っています。「クリニックラウンの活動を定着させることにより、子どもにとっての遊びや笑顔の重要性を、子どもの権利の選択肢の一つとして社会に広めていくこと」も、同協会の大きな活動の一つに位置付けています。子どもたちの笑顔のために、このような活動を支援していくことも、私たちが参加できるファミリー・フレンドリー活動ではないでしょうか。